

「保険自由化」20年の軌跡〈10〉

—その影響と今後の展望を探る—

日本保険仲立人協会

理事長 平賀 暁氏

今回は、日本保険仲立人協会理事長の平賀暁氏。1996年の保険業法改正を受けて誕生した保険仲立人制度は、保険自由化の流れとともに、歩みを進めてきた。2016年5月の業法改正では、保険仲立人の役割が明確化された。東日本大震災の発生や企業のグローバル化が進み、企業のリスクに対する意識も向上している。同協会は今後、大きく変化するリスクや企業、業界にどのように向き合っていくのか。20年間を振り返るとともに、今後の課題や見通しを聞いた。

—この10年の業界や顧客、保険仲立人の変化は。

平賀 2年前の業法改正で、「顧客から委託を受けてその顧客のために誠実に保険契約の締結の媒介を行わなければならない」という保険仲立人の役割が明確化されたことが最大の变化だ。10年前は、定義があいまいだったが、現在は、顧客への



平賀理事長

の媒介やリスクマネジメント・サービスの提供が明文化され、顧客への説明が容易になった。この他に、保険仲立人業を始めるための供託金が減額され会員数が増加したこともある。当局は今後の動向を見て、さらに減額する考えを示唆している。もう一つの変化は、

—企業の意識が向上した要因は。

平賀 日本企業のグローバル化が進み、海外進

保険仲立人の役割明確化 常にリスクの最前線で最適提案を

の保険仲立人の資格を持つ人が論文などを提出し審査した上で「保険士」の称号を付与するものだ。われわれの仕事は、顧客のリスクマネジメン

ト。リスク転嫁の手段として保険の媒介を行い、リスクアドバイザーとして、最良の対策を顧客に提供している。

—東日本大震災は大きな出来事だったが、その後で企業のリスクに対する変化はあったか。

平賀 まず保険加入率が上がった。その背景には、本来は損害額を精査してから支払う保険金を、東日本大震災の時

付いた企業も増加した。——利益保険は日本ではあまり普及していないが。

平賀 東日本大震災の同年にタイで発生した洪水被害で、多くの利益保険の保険金が支払われたことから分かれるとおり、海外では一般的な保険だ。保険金を支払ったのは、ほとんどが日本の保険会社だった。それにもかかわらず日本で普及していないのは、保険金の査定が難しく、支払いまで長期化するためだ。査定に関しては計算方法で対象・非対象など細かな取り決めがあるため、

と判断している企業があるのも事実だ。発生する確率が高いとされる大地震に備えることは企業として必須であるということを強く訴求していく。一方で、危機管理への意識をどのように継続するかという課題もある。

——意識を継続するためにはどうすれば良いのか。

平賀 企業は、ステークホルダーのための存在であることを自覚することが重要だと思う。海外ではステークホルダーの企業に対する目は非常に厳しいが、日本では、利益に対する追求が甘い

最終的に保険会社が提示する額しか受け取れないこともある。その分野の交渉や折衝をするのが、保険仲立人の大きな役割だと認識している。

——BCP(事業継続計画)に対する意識も向上しているのか。

平賀 大手や中堅企業は、リスクの代替手段や既存のBCPに対する精査に注力しており、見直しの相談なども受けるようになった。熊本震災後には、BCPの重要性を痛感したという企業もあ

った。その中でも、何か起きなければ動かない企業はあり、リスクはない

上がった。企業にリスク意識が根付いていない。——日本企業のグローバル化が進めば意識の変化はできるのか。

平賀 中堅企業からといって、オーナーが日本企業だとは限らない。外国人投資家が増えているので、リスクに対する意識は変化していくと思う。取引先が海外の事業者だと商品の賠償責任の金額を問われたり、保険に加入している証明書の提出を求められたりする

ため、保険に対する意識は海外の事業と接点がある事業所はおのずと上がったように、新たな創造があれば、新たなリスクも発生するので、常にリスクの最前線に身を置いて、リスクのアップデートを続ける必要がある。われわれは、時の流れに沿って感応度を上げ、顧客にベストアドバイスを提供していく。この他にも、海外で発生しているリスクが今後、日本に発生する可能性など情報を得て発信したり、保険会社とそのリスクに対応する商品を作る可能性もある。それにはニーズに先駆けて実行することが大切であり、ア

ンテナを張り、情報をどこよりも早く得ることを心掛けていく。

——これからの10年、業界とリスクの見通し

平賀 正直、今後の保険業界の10年は予見しにくい。新しい技術が導入されることで、さまざまな分野が変化し始めている。具体的には、ペーパーレス化が進み、証券などは紙媒体ではなくなることが見込まれている。それに伴い、働く環境も大きく変化するため、準備しなければならぬリスクも大きく変化するのではないかと思う。他にも、デジタル化が進化し、AIを活用してリスク診断を可能にする技術が確立するかもしれない。たとえそうなたとしても保険仲立人としての存在価値を顧客に示していく。

平賀 正直、今後の保険業界の10年は予見しにくい。新しい技術が導入されることで、さまざまな分野が変化し始めている。具体的には、ペーパーレス化が進み、証券などは紙媒体ではなくなることが見込まれている。それに伴い、働く環境も大きく変化するため、準備しなければならぬリスクも大きく変化するのではないかと思う。他にも、デジタル化が進化し、AIを活用してリスク診断を可能にする技術が確立するかもしれない。たとえそうなたとしても保険仲立人としての存在価値を顧客に示していく。